

【緑地の樹】

クヌギ(栲、橡、櫟)

クヌギの用途は多い。それでその名が知られている。薪炭、シイタケ栽培、天蚕の飼料、観賞用庭木、食料としてのドングリなど。農家にとっては、畑の維持に欠かせないもので、クヌギ林の手入れは、畑と同じ程度に怠ってははいられないものである。

萌芽更新といって、15年程のサイクルで伐採をしても、すぐ根元から脇芽を出して、次の15年で伐採に耐えられるほどに成長する。ほとんどはそこで伐採されてしまうが、100年くらいは生きながらえるのではなからうか、まれに古木を見ることがある(目黒の自然教育園など)。西緑地にも50年以上は生きていていると思



クヌギが育てた天蚕の繭

われる巨木が数本みられる。黒くてごつごつした幹は貫禄がある。夏期に濃い緑の密生する葉が太陽に反射している様子は、見事な眺めだ。ただ、陽樹の代表といわれる

プロフィール：ブナ科 コナラ属

緑地の中央広場、テーブルの周りにいっぱい生えています。

だけあって、たっぷり陽光を浴びていなければ生きていけない。

特性としてはドングリができるまでに2年を要することだ。秋の枯葉は枝から離れず、春になって新芽に押し出されるまで枝から離れずくっついてい。樹液でカブトムシを育て、多量の葉でヤマユを育てても、何の負担も感じていないだろう。天蚕繭の美しい緑は、あのたっぷりある葉の緑があつてこそのもなのだ。まさに雑木林の王者と

いっていいだろう。冬の立木も美しい。地面にうっすら積雪のあるクヌギ林の黒い幹と白い雪の取り合わせは、冬の冷たい空気の中で人間の精神を蘇生させる力がある。

(佐藤)

